

大石順教 おおいし じゅんきょう 僧侶。明治二十一年大阪生れ、昭和四十二年四月十一日没（八八―九六）。俗名よね。明治二十八年堀江七人斬り事件で養父の兩腕を切斷せられるも、障子を売取して文筆・繪畫を修め、身障者の福祉活動に専念。昭和八年高野山天徳院で得度、十一年京都勸修寺に佛光院を建てしめた。

著書 『無量の法悦―善吉物語』（昭和二十四年九月、二十八日大藏出版株式会社）、『掌（おなこころ）』（昭和二十七年八月、千代田歌山・高野山出版社）、『みちのく』（六版・昭和四十二年一月、千代田歌山・大石会）、『無量の法悦』（昭和四十二年二月、二十一日春秋社）、『歌日記』（昭和五十五年四月、二十日京都・大石順教尼遺徳顕彰会）等。野沢純著『風雪の花―順教尼物語』（昭和二十八年十一月十五日富士新報社）刊。

